

月の奏で

五年

棚瀬

寛久

ぼくは、ドキドキ・ワクワクしている。

今から、完成したばかりの月の大きなコンサートホールで、演奏会があるんだ。

しかも、オーケストラは宇宙初！ 何と、

ぼくもバイオリンとホルンで出る！

今まで、宇宙に音楽はなかった。音も、あ

るのか微妙だった。（ピタゴラスは、惑星の

運動が音を生み出すといった。科学者のシヨ

ン・クレマーは、宇宙マイクロ波のデータ

を音にした。NASAは、ブラックホールの

圧力波を「五オクターブ下のBフラット」音

だといっていたのは、理科で習ったけど。

宇宙の音楽といえば、地球から楽器を持ち

こんで、国際宇宙ステーションなどで演奏し

たりしていた。

ところが、このホールは空気が満ちている。

地上のように、音が響くというわけだ。丸い

天井はとう明で、演奏中にも地球が見える。
 すごいでしょ？

今の月は、昔の地球から見ていた月とはぜんぜん違う。大きな森や湖があつて、いろんな生き物がのびのびと暮らしている。

時間だ。ホールに入ると、重力が地球と同じなので、ズンと体が重くなった。

ステージのわきからのぞくと、お客さんは人間だけじゃない。トラやゾウ、ホワイター、インガーやライオン、キリンやカンガル、ペンギンやオオワシ、カワウソたちがいた。

ライオンはピシツと座り、カワウソはしっぽをフリフリ。キリンは長い首をゆったりゆらし、ペンギンはお腹をポンポンたたいてリズムカルだ。みんなのワクワクが止まらない様子が伝わってくる。

いよいよ、開演だ。

まずは、宇宙にちなんで、帝国のマーチ。指き者の合図で、チェロやコントラバスなど弦楽器の低い音色が、ズンズンと響きわたる。

ゾウが「パオーン」と鼻を上げ、ドスドス
と足をならした。

次は、コスター・ウォーズのメインテーマ
だ。トランペットやトロンボーン、ホルンや

バイオリンなど、さまざまな金管楽器が鳴り
響くと、天井に無数の星たちが映し出された。

まるで宇宙空間を飛んでいるような気分にな
れる演出に、ペンギンたちはピョピョンはね、サルは手をたたいた。

ついに、月の交響曲^レの初ひろうの時だ。
ぼくが作った曲。トロンボーンとトランパツ

トが主役の激しい曲で、ブルツクナーの交
響曲^レ第1番^レに似ている。

バイオリンの音色が、青白い地球の光の中
にとけていく。観客は静かに耳を傾け、ライ

オンの目からは大きな涙がこぼれ落ちた。

やがて、最後の音が消えると、ホールは大
きな拍手に包まれた。

トラは指笛のような声を出し、ホワイタ
イガーはブルブルッとふるえ、ライオンは

ガーッとほえた。オオワシは羽をバツサバツサと広げ、カワウソはしっぽをフリフリした。

人も他の動物たちもいっしょに、手や足や羽をならして喜んでいいる。お父さんとお母さん、お兄ちゃんもうれしそうだ。

会場中がひとつになっっているような感覚がして、ぼくは胸が熱くなった。

地球を出発した時は、「ちゃんとできるかな」と不安もあったけど、みんなが笑顔なら大成功だ！

「ああ、音楽ってなんてすばらしいんだろー」

音楽は、地球と月をつなぎ、人間と他の動物たちをつなぎ、ぼくたちの心をつないでくれる。

ぼくは決めた。これから宇宙で音楽を奏でていくことを。月でも他の宇宙でも、みんなの心が幸せでいっぱいになるように。

こうして、宇宙初の月の演奏会は、幕を閉

じ
た。
。